



紹介者

毛呂 准子

商船三井
取締役

太田 寛

シグマクス・ホールディングス
取締役社長



パラリンピックの感動

パリ・パラリンピックを現地で観戦した。パラリンピックは、障がいを持つ世界のトップアスリートたちが自らの限界に挑戦し、パフォーマンスを競い合う場だ。日本ではテレビ中継が少なかったが、競技場は全力を出し切る選手の姿に、深い感動と勇気を得る人で溢れていた。私もその一人だ。

観戦した競技は日本チームが劣勢で、私は懸命に応援していた。出場選手の一人が会社の同僚だからなおさらだ。しかし、目の前で激しく繰り広げられる競技を観ていると、対戦相手のプレーにも自然と心が揺さぶられ、称賛の気持ちが湧き上がってきた。そこには、自らの身体的・精神的限界に挑み続け、自己を成長させてきた選手同士の競り合いがあり、同じ人間としてリスペクトを感じずにはいられなかった。試合終了後には、選手たちが国を越え、勝敗を超越して互いの健闘を称え合う、素晴らしい光景がそこにあった。この舞台に立つ各国代表のアスリートが積み重ねた努力は計り知れない。互いに背負うものがある彼ら・彼女らだからこそその共感や深い絆もあるのだろう。

競技の中では、時に考えられないミスや思い通りにいかないことが起こり得る。先のパリ大会では、アスリートへの^{ひぼう}誹謗中傷が深刻な問題となった。SNSの普及により個人が自由に発信できるようになったと同時に、その影響力や責任感が問われる場面が確実に増えている。この素晴らしい技術は、人々にもっと幸せをもたらすものであってほしい。私自身はパラリンピックを生で観たことで、勝負の結果にかかわらず、懸命にプレーする全ての選手たちを心から称賛したいとあらためて思った。誰もがアスリートの努力を称え、リスペクトし、共に成長していくことができる美しい未来を、次世代と共に創っていきたくて強く感じたパリへの旅であった。

▶▶ 次回リレートーク

石田 裕樹

YCPホールディングス
取締役兼グループCEO